

「旧街道」(東浦路・東浦筋)

この旧街道は、鎌倉時代から小田原で東海道から別れ、下田までの重要な街道であった。このうち中央区立宇佐美学園裏側から網代峠の茶屋までの約4kmは、最も自然が残っている区間です。

江戸時代に書かれた 宇佐美旧街道日記 宇佐美から網代

宇佐美村、砂利浜を歩き、村里に至りて、左の方に春日の社あるを歩きて拝みつ。この社頭に安宅丸という御船を造らしめ給うところ伐りたりけむ桶なむ有りける。伐りたし木の幹は十二人してかかゆといえり。行く手の左に、鎮守八幡宮と額打ちたる石の鳥居あり。村長半三郎の家に休らいて、ゆききの道の松の葉越に、海の面をながむれば、左は真鶴崎、右は川奈崎を隈

れり。磯打つ波の景色ことさらによし。庭に大なる蘇鉄のあまた枝ふりたるあり。所望したけれども、持伝えたる木とていなみつ。又山越えなり。この所海見す。峠を網代峠という。ここよりして網代村の境なり。峠よりは海望よろし。乾の方置嶺の上に、富士の嶺二合目より上見ゆ。右には天城山きのうの雪、未だ消えず見ゆる。

浦賀奉行小笠原長保「甲申旅日記」

※安宅丸とは三代將軍家光が伊東でつくらせた巨大船。その材木に宇佐美・春日神社の大楠がつかわれた。

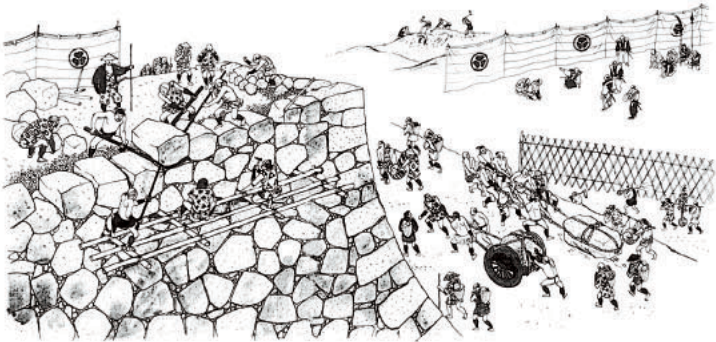
旧街道を歩いてみよう！
昔の雰囲気そのままだに楽しむことができます。



家康・秀忠・家光と三代にわたる江戸城築城石の切り出しの大部分は伊東から

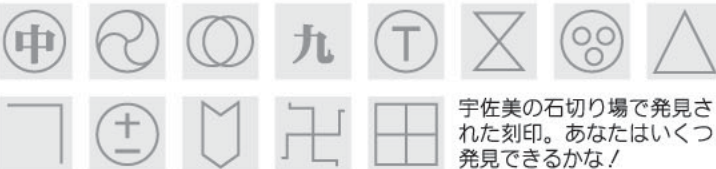
家康が江戸へ入った頃の城は、貧弱なものであったが、関ヶ原の戦いに勝って江戸が天下の中心となるにつれて、家康はここを壮大な城につくりかえた。その基礎となる石垣用の石の大部分は、伊豆から運ばせた。慶長10年(1605)から始まる30数年の間に、何回にもわたって全国の大名に命じて石を切り出させた。伊東はその中心的な場所にあたるので、いたる所に大名の石丁場(石の切り出しを行う場所)が置かれ、村の人

口の数倍にもあたる作業員が来ていた村もあった。多い時には、3,000艘もの船が、月に2度ずつ江戸と伊豆の間を往復したといわれ、伊東の村々にも大きな影響があったと思われるが、具体的な内容については、よくわかっていない。現在の皇居(昔の江戸城のあと)の石垣の中にはこうして伊豆から運ばれた石がたくさん入っている。



こくいんせき 刻印石とは

採石された石には「刻印」が刻まれ付けられることが多く、この刻印が助役大名を決める決め手として重要である。「刻印」を「石垣にノミで刻んだしるし」で「刻印石」と称する。



- (丸に一) これは前田家もしくは細川家と推定。
- (丸に十) 島津家の家紋であり、大阪城でも島津忠興の印。佐土原藩島津家の可能性が高い。
- (丸に九) 伊豆地区の石丁場調査では加賀前田家が九曜を使っている。細川家のものである公算が強い。

通称「クズレ」
街道左下は、江戸城修築の時の石切場であり、雨水の流れやすい所でもあったため、ここを「クズレ」と昔から呼んでいる。

重要な歴史文化遺産

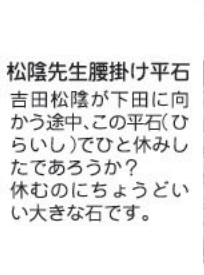
はしはえつちゅうのかみいしは

「羽柴越中守石場」の大標石

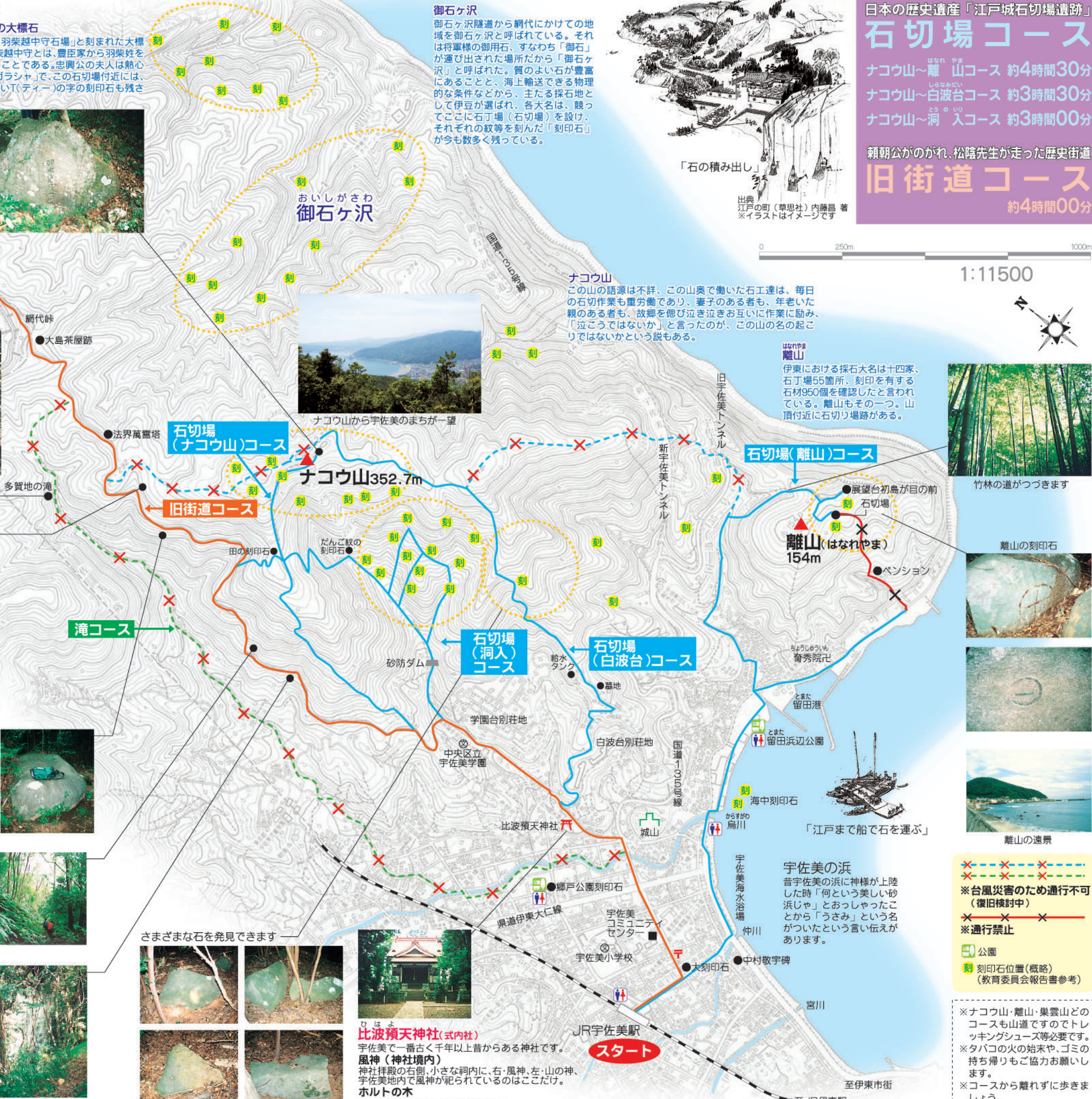
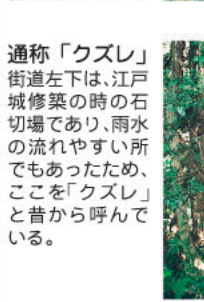
ナコウ山石切場には、「羽柴越中守石場」と刻まれた大標石が現存している。羽柴越中守とは、豊臣家から羽柴姓を受けた「細川忠興」公のことである。忠興公の夫人は熱心な切支丹信者の「細川ガラシャ」で、この石切場付近には、当時としてはめずらしいT(ティー)の字の刻印石も残されている。



峠の馬頭観音
もう少して峠というところにある。台座に道標が彫られ「村内安全」とある。寛政九丁巳年(1797)と刻まれてある。



ユーカリの林
バルブ材の不足を補うため、生育の早いユーカリをこの山一帯に植えて、バルブ材にした名残が現在も残っている。



御石ヶ沢

御石ヶ沢隧道から網代にかけての地域を御石ヶ沢と呼ばれている。それは將軍様の御用石、すなわち「御石」が運び出された場所だから「御石ヶ沢」と呼ばれた。質のよい石が豊富にあることから、海上輸送できる物理的な条件などから、主たる採石地として伊豆が選ばれ、各大名は、競ってここに石丁場(石切場)を設け、それぞれの紋等を刻んだ「刻印石」が今も数多く残っている。

ナコウ山

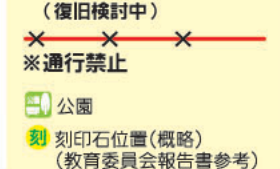
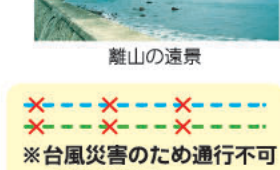
この山の語源は不詳、この山奥で働いた石工達は、毎日の石切作業も重労働であり、妻子のある者も、年老いた親のある者も、故郷を偲び泣き泣きお互いに作業に励み、「泣こうではないか」と言ったのが、この山の名の起こりではないかという説もある。

離山

伊東における採石大名は十四家、石丁場55箇所、刻印を有する石材950個を確認したと言われている。離山もその一つ。山頂付近に石切り場跡がある。



竹林の道がつつきます



※ナコウ山・離山・巢雲山とのコースも山道ですのでトレッキングシューズ等必要です。
※タバコの火の始末や、ゴミの持ち帰りもご協力お願いします。
※コースから離れずに歩きましょう。

さまざまな石を発見できます



ひはよ
比波預天神社(式内社)
宇佐美で一番古く千年以上昔からある神社です。風神(神社境内)
神社拝殿の右側、小さな祠内に、右・風神、左・山の神、宇佐美地内で風神が祀られているのはここだけ。
ホルトの木
静岡県指定天然記念物(神社境内)

スタート

宇佐美の浜
昔宇佐美の浜に神様が上陸した時「何という美しい砂浜じゃ」とおっしゃったことから「うさみ」という名がつけられたという言い伝えがあります。

※台風災害のため通行不可(復旧検討中)
※通行禁止

公園
刻印石位置(概略)(教育委員会報告書参考)